

GOLF EQUIPMENT WORLD  
ゴルフ用品界

# GEW

## SPECIAL FEATURE

ヤフオクで読み解く勢力図  
『個人の逆襲』が始まった



## シャボン玉の溶液づくりに3ヶ月の試行錯誤 夏休みゴルフイベントで業界女子の汗と献身

**栃**木県鹿沼地区13のゴルフ場で構成される鹿沼地区ゴルフ場協議会は8月18日、「第3回ごるふあみふえすた」（鹿沼72CC、栃木県鹿沼市）を開催した。同コースの9ホールを使った会場では、「パターゴルフ」や「スナッグゴルフ」をはじめ、コース内を探検する「ゴルフカートでコース体験」を実施。さらに、コース内の池を清掃して泳げるようにした「じゃぶじゃぶ池」「スイカわり」など、約250名の親子が夏休みの一日を楽しんだ。鹿沼72CCの瀬崎明男支配人は、開催の目的を次のように語る。

「参加した子どもたちが将来、ゴルフを始めるきっかけづくりになればと思って始めたのですが、まずはゴルフ場で遊んでもらうことで、普段なかなか入れないゴルフ場と触れ合う機会を提供したかったのです。少なくとも、今後10年以上は続けたいですね」

このイベント運営には、栃木県内に108ホールを展開する鹿沼グループの従業員50名と地元ボランティア12名が参加。特に目を惹いたのは、女性スタッフの多さだった。ここから話を引き取るのは、同社東京営業部の米谷彰子リーダーだ。

「そうなんです。イベント運営スタッフのうち女性は30名。当グループ全体ではパート、キャディ合わせて400名以上の従業員がおりますが、そのうち約4割が女性です。積極的に女性を採用するようにしています」

と前置きして、次のように続けた。

「こういった行事は、女性ならではの気配りや気づきが必要だと思いますね。具体的には、会場本部にベビーベッドを置いたり、各レクリエーションで遊ぶ子どもたちの待ち時間を少なくするためのスケジュール調整。今年から、運営スタッフや参加する親子全員にひらがなで書いた大きな名札を胸に張ってもらい、お互いが名前と呼び合える環境をつくったりしています。来



年は、ベビーカー置き場を作ろうと考えているんですよ（笑）」

また、面白いのは同社が社内研修の一環として行っている『若手育成プロジェクト』。毎年、新卒2年目のチームに、同イベントで自分たちが企画・実施するブースづくりをさせているという。チームワーク、リーダーシップの強化が目的だ。ちなみに、同チームは8名中6名が女性。チームをまとめる吉野里美さんは、

「今年の出し物は、ゴルフボールにペイントやシールを張ってデコレーションする『オリジナルボールづくり』、ペットボトルをボウリングのピンに見立てて遊ぶ『サッカーボウリング』、自作の『しゃぼん玉遊び』の3つを企画しました。

苦労した点ですか？ しゃぼん玉の溶液づくりですね。子どもでも簡単に大きなしゃぼん玉が作れるようにするため、3カ月間ぐらい試行錯誤を繰り返しました。濃くすれば膨らみやすいけど、芝生を痛めてしまうし、薄いとすぐ割れちゃう。最終的には、しゃぼん液に洗濯のりとガムシロップを配合して完成させました。ガムシロップは液が乾きにくくなる特性があるんですよ」

子どもたちの笑顔と同じぐらいスタッフの笑顔が印象的だった同イベント。多くの活性化イベントは、ゴルフをさせることに注力しがちだが、もっと自由な発想で、ゴルフ場を遊び場にすることが必要かもしれない。（高見澤）